



数学「二次関数」の授業風景(二年生)。本校では、生徒が「主体となる授業づくり」を目指して、校内研修を進めています。生徒同士、相談しながら問題解決をしている様子です。
(土別市立土別中学校)

おもな内容

	ページ
随 想	1
教育講演会講演録	2
研究室だより	3
第15次研修事業計画策定について	4
研修講座寸描	5～9
出前講座寸描	9～10
心に残る授業 その⑩	10
センター無線化(Wi-Fi化)のお知らせ	10
フィンランドシンポジウムのご案内	10
出前講座等のタブレット活用について	10

随 想

愛情に裏打ちされた 言葉の力



上川教育研修センター

副所長 小 谷 要 次

私が幼い頃、「また、ダハンコイテ、このタクランケが、本当にハンカクサイね。でもお前はメンコイよ。」と、毎日のように母親から叱られたり、あやされたりしていたことを記憶しています。北海道弁が飛び交う言語環境の中で育ってきた私ですが、厳しくきつい言葉であっても母親から発せられる言葉は、どこか温かく気持ちの良いものでした。

中学の二年生になった時、「将来は学校の先生になりたい!」と決意する言葉に出合いました。それは、社会科教師の担任の先生から発せられた言葉です。先生の授業は、社会科という教科を通して、真に「人の生き方」を示唆してくださるものであり、人生を熱く語る先生の人間性に変な魅力を感じていたのは私だけではなかったように思います。とりわけ、病弱な母親と貧困で暗くなりがちな私に、「母さんを大切に」「苦しさに負けるな」と、言葉をかけてくださいました。この言葉は、私の人生においてターニングポイントとなり、教員を目指すきっかけとなったのです。

言葉の背景には、相手を思いやる深い愛情が脈々と流れていることを知ることができ、あらためて言葉の力・重さを噛みしめています。

さて、教室の中で教師が発する言葉には、子どもにとって大きな意味を持つことは、論じるまでもありません。何気ない言葉が重要な役割を果たすこともあれば、子どもの心を深く傷つけることもあります。言葉の暴力はあつてはなりません。日々行われる授業では、主な情報伝達は教師の言葉です。教師の愛情に裏打ちされた言葉は、子どもの心を安定させ、学習意欲を引き出す源になるものと確信します。「置かれた場所で咲きなさい」の著者である渡辺和子氏は、「言葉は、いつまでも生きものであってほしい。相手を生かし、自分も力づけられる、血のかよった、ぬくもりのある言葉を、そして、その言葉が使える自分を、無機質なものの溢れる中で、しっかりと守ってゆきたいと思います。」と記述しています。

我々大人は、これまで以上に「言葉」を意識する必要があるのではないのでしょうか。言葉がもつ力や重さについて今一度考え、子どもの心に染み入る生きた言葉が使えるよう日々努めることが大切であると思う昨今なのです。



本校では、ICTを活用した学習を推進していきます。調べ学習や視覚的な教材を用いた学習活動で、児童の理解をより確かなものとするために、タブレット端末を活用した授業づくりに取り組んでいます。写真は六年生が地図アプリを用いて修学旅行の研修計画を立てている様子です。
(旭川市立千代田小学校)

センター日誌

- 7月8日 夏季拡大研究会議
 - 7月17日 教育委員会会議
 - 7月28日～8月7日 研究室夏季集中研
 - 7月31日・8月1日 道研連夏季所員研
 - 8月19日 センター組合議会運営委員会
 - 8月25日 センター組合議会本会議
 - 9月25日・26日 道研連北広島大会
 - 11月4日 センターだより118号発行
- ※ 毎週火曜日 定例研究室会議
※ 随時 研修講座講師打合せ会議

上川教育研修センター教育講演会

時 平成二十六年七月三十一日 於 旭川市大雪クリスタルホール

「確かな学力の基盤となる運動の重要性」

～運動のできる子どもは勉強もできる～

講師 東京大学大学院総合文化研究科教授



深代千之氏

1 はじめに

現代は、子どもが成長・発達する過程で体育か勉強かの二者択一で考える場合が多いが、体育も勉強もその両方に能力を発揮できる子どもはたくさんいる。だから、両方の可能性を閉ざさないことが重要である。昔に比べて、子どもたちの身体は大きくなったが、逆に運動能力は低下傾向にある。これは、知育に偏重した受験勉強の影響で、運動が受験勉強の後回しとなり、運動するために最適な時機を逸していると言える。昔は、普通の生活をするだけで健康を保てたが、現代は、日常生活だけでは健康に必要な能力を確保することは難しい。日常生活の中に適度な運動を取り入れ、生活の基盤となる体力を養う必要がある。そのため、「子どもには、いい時期に運動させよ。」と発信し続けている。

2 身体の発達を支える3つの視点

子どもの成長には、「知・徳・体」が重視されているが、昔は、「知・徳」があれば、日常生活の中で「体」は育まれている。現代は、普通の生活をしていくだけでは不十分で、「体」を意図的に発達させようとする必要がある。そのためには、「力強さ」、「ねばり強さ」、「巧みさ」の3つの視点が重要となる。

(1) 力強さ

力強さには、筋骨格系が関係している。そこで、骨を丈夫にするためには、運動する時、骨に対して縦方向の刺激を加える必要がある。また、運動には筋肉が関わっており、意識的に動かすことができ骨格筋があり、速く動く速筋とゆっくり動く遅筋があり、力強さは、速筋の働きによる。筋肉は、トレーニングすることによって強くできるが、その際、運動の強度・回数・頻度・負荷重量を考慮する必要がある。筋肉を鍛えるため、筋トレをする速筋が太くなり力強さを増すが、持久的なトレーニングを行うと逆に速筋は細くなり、力強さは減退する。

(2) ねばり強さ

ねばり強さは、肺や心臓などの呼吸循環系が関係していて、持久的な運動種目を行うときには、遅筋が働いているが、遅筋は鍛えても太くならない。このことを踏まえ、長距離選手は、持久的なトレーニングで遅筋を細くし、相対的に遅筋を増やしている。持久的な運動をすると脂肪が燃焼するので、脂肪を落とすだけじゃなく持久力を高める運動をして、食事をコントロールするべきである。また、階段を上り下りでもトレーニングをするので、持久力を高めたい場合は上り階段を、筋トレをしたければ下り階段を利用するとよい。このように一つの環境を目的に合わせて活用すると効果的なトレーニングができる。

(3) 巧みさ

巧みさは、脳神経系が関係しており、巧緻性を養うには踊りや球技などが適している。幼稚園から小学校低学年くらいまでは、脳神経が大きく発達する時期で、いろいろなる運動をする巧みさを伸ばすことができる。この巧みさは、脳で記憶されるパターン形成で、繰り返してやればいいということではない。運動は、一回できるようなものまで努力することが大切で、小さい時から様々な運動を積み重ねる経験なしにそれが突然にできるようになることはない。このような巧みさを身に付けるためには、「反復」、「オーバートレーニング」、「イメージトレーニング」など7つのルールがある。これらのルールは、運動ばかりでなく、語学の習得や社会的な事等にも当てはまり、「勉強することと運動することには相通じるもの」がある。

3 子どもの特性を見取る教師の役割

現在、スポーツの低年齢化が進み、子どもの運動特性が見えてこないように、取り組むスポーツを決定する傾向がある。「跳ぶ」「投げる」「捕る」「蹴る」「組む」等でこれらをうまく組み合わせるとスポーツが上達する。昔は、集団で遊ぶことを通して子どもが自分の特性をつかむことができたが、今は集団で遊ぶことが少ないため、子ども自身自分の特性を実感する機会が少なくなっている。そのため、先生が子どもにいろいろな動きをさせて特性を見取り、それを保護者に伝えていくことが大切である。そうして、子どもの特性や興味に合わせて取り組むスポーツを決めていくようにすると、失敗も少なくなる。現代では、子どもたちを見てあげられるのは先生である。

4 遺伝より環境、天性より努力

何かできない時、「不器用だから」という一言で片付けることがあるが、巧み

さは遺伝ではなく練習(努力)したかどうかで決まる。努力しないことを棚に上げて遺伝のせいにしていない場合があるが、不器用な子どもは絶対にはない。その運動をやったことがないだけである。「遺伝」か「環境」という議論もよくされるが、勉強も運動も「環境」で決まる。また、「天性」よりは「努力」が大切で、子どもたちは、努力すればどうにかなる可能性を秘めているものである。

5 運動と勉強の相補的關係

運動をする時、楽しんでできる工夫をすることが重要である。楽しく運動していたら、自然に健康になっていくというように発想を転換するとよい。アメリカのデータによると、英語・数学の成績と体力テストの成績には相補関係がある。また、部活動入部率と高校偏差値の間にも相補関係がある。勉強も運動も両方できる子どもは必ずいるということである。朝、勉強の前に軽く運動すると記憶力は高まるし、運動しながらの方がよく理解し覚えられ、運動しながら勉強すると記憶力は高まるし、運動しながらの方がよく理解し覚えられ、運動しながらの結果がでるといふことである。

6 おわりに

指導者は、やればやるだけ成果が上がるトレーニングと、目標を達成するための練習は全く違うことを理解する必要がある。また、筋肉に記憶力はない。すべての運動は脳からの指令で動いているので、あえて「運動神経」と呼んでいるゆえんである。「運動会」はビリになるのが嫌だ。「という子どもには、去年と今年の子の走りをビデオで比較させ、速くなったことを実感させるとよい。また、ずっとビリの子どもには、他の子どもとは違った能力があることを、伝えてほしい。教育で何を目標にするか。キーワードは「あさって」と「原っぱ」。何でもすぐに与えず、子ども本人が考えながらできる場面をつくるのが重要である。

今、研究室では…

研究主題

学び合いで確かな学力を育てる学習指導の在り方
～思考力・判断力・表現力を育む指導と評価～

第16次研究 Q&A

今年度より、上川教育研修センター第16次研究がスタートしました。

第16次研究では、問題解決的な学習過程の中に、効果的な言語活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を育む学びの場を意図的に設定していく学習指導の在り方について研究しています。

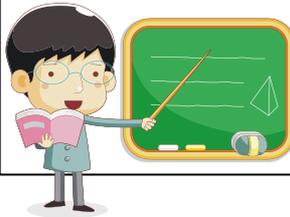
今回のセンターだよりでは、本研究の内容についてご紹介したいと思います。

Q1

主題にある「学び合い」は、どのようなことを指しているのですか？

A

児童生徒一人一人の学びに基づき、他者と交流しながら、互いに理解を深め、考えを統合・収斂させながら思考を発展させ、確かな学びに高めていくことを指しています。



Q2

「思考力・判断力・表現力」を育むために、どのような学習指導を展開していくと良いですか？

A

児童生徒の思考の流れに沿った問題解決的な学習過程の中に、意図的・計画的に言語活動を位置付けていくことが大切です。

本研究では、言語活動を、学習の課題に対して自分の考えをもつ「個人思考」、他者との伝え合いを通して、多様なものの見方・考え方に触れる「集団思考」、再び自分の考えを深めたり発展させたりする「思考のまとめ」の3段階に分けて設定しています。なお、設定する際には、教科の特性に応じて単元の指導計画及び1単位時間の指導に効果的な言語活動を位置付けることが大切です。



Q3

研究の仮説にある「学びの基盤」とはなんですか？

A

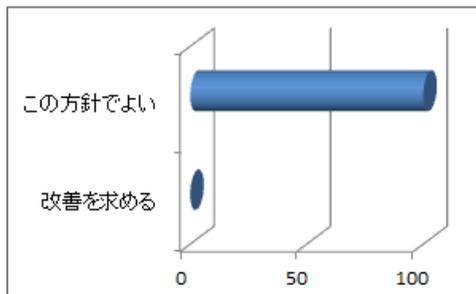
児童生徒が落ち着いて学習に取り組み、学習の見通しを立てたり、振り返ったりできるようにする「教室環境の整備」、授業を効率的に進めるために必要な「学習規律の確立」、誰もが前向きに学習に参加できる雰囲気作りや互いの発言を認め合える「支持的風土の醸成」など、学びを支えるために必要な学年・学級経営を指しています。

しっかりとした「学びの基盤」があって初めて確かな学力を育てることができると考えています。

第15次研修事業計画策定に向けて

～アンケートへのご協力ありがとうございました～

I 基本方針の策定について



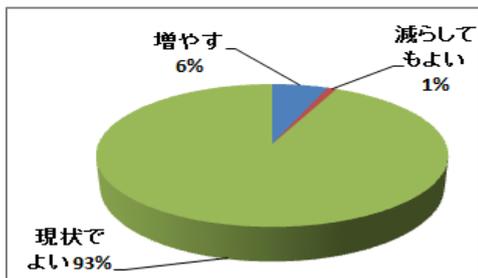
・100%の方から、「この方針でよい」とするご回答をいただきました。

＜アンケートの際に提示した
第15次研修事業計画の基本方針案＞

- ① 教科指導等を始めとした講座については、「小中合同、講義（夏季休業中）と研究授業（2学期）の分離開催」とした、現在の講座形式を継続しつつ、内容の一層の充実を図る。
- ② 教職員の経験、職種に応じた講座を設定し、ライフサイクルに基づく研修の場として必要な資質を中心に内容の充実を図る。
- ③ 学校（地域）や教育研究団体等のニーズに応える「出前講座」の充実を図る。
- ④ 今後の学習指導要領改訂を見据えながら、講座内容の充実を図る。

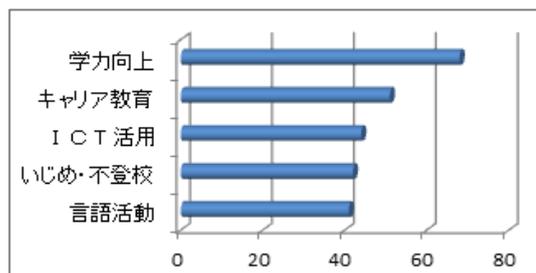
II 開設講座について

(1) 講座の開設数について



・93%の方から、「現状でよい」とするご回答をいただきました。

(2) 重点的に研修したい内容について（複数回答）



・上位5つは①学力向上②キャリア教育③ICT活用④いじめ・不登校⑤言語活動の順です。その他としては、道徳、体力づくり、情報モラルなどがありました。

III パソコン講座について

(1) 講座の実施数

- ・63%の方から「現状でよい」とするご回答をいただきました。

(2) 役目を終えたと思われる講座

- ・表計算入門（18%）、画像処理（17%）
※実際には、表計算講座には多くの方が受講され、「参考になった」との高い評価を得ています。

(3) 新設を求める講座

- ・ICT機器の利活用、教材作成 等

IV 講座全般にかかわるご要望など

＜実施内容について＞

- ・内容が若い教員向けに傾きがち。30代から40代向けのものがほしい
- ・今日的な課題（道徳の教科化、小中連携、LINE等の問題等々）に対応した内容
- ・授業で使える実習 等

＜実施形態について＞

- ・夏季休業中に多くの講座を開催してほしい
- ・参加希望者を無理に集めずとも、自然と集まるような講座にしてほしい
- ・期限付教諭が積極的に参加できる講座 等

○学校・各団体併せて181通のご回答をいただきました。ご多用の中、ご協力いただき心からお礼申し上げます。
○お寄せいただいた貴重なご意見を参考にさせていただき、第15次の基本構想と講座計画の詳細を作成します。
○今後とも、当センターに対してお意見やご要望をお寄せください。

(5)

4 学校経営Ⅰ 6/11

竹本 克己 (教職大学院 教授)
水口 正博 (末広小 校長)
中村日出元 (東光中 校長)
若林 弘士 (上富良野小 校長)

講師



竹本教授の講義では、「一人(集団)にプラスストーリーを与えるのが校長の役割である。」というお話に感銘を受けました。学校経営における校長の役割、危機管理についての提言、グループ協議は実践的な内容で大変有意義な研修でした。(東川町立東川第三小学校 紺野 元樹)

研修講座寸描

講座の様子から

5 学校経営Ⅱ 6/12

奥山ゆみ子 (明星中 校長)
田中 和幸 (東聖小 校長)
中山 雅文 (朝日小 校長)
西谷内弘明 (北門中 校長)

講師



学校力向上等学校改革のため大変有意義なものでした。職員を生き生きと融合させ、組織の力を導く教頭として、自分の有り様を見つめ直す良い機会となりました。講義や分科会で実践に即した多くのご指導をいただき、ありがとうございました。(富良野市立樹海中学校 大場 八仁)

2 特別支援教育② 6/13

加藤 勝 (朝日小 教諭)
後藤 博美 (新富小 教諭)
垣副 澄絵 (北都中 教諭)

講師



小学校では「聞くこと」に特化した授業づくりを、中学校では「作業学習」で生徒たちが実際に生き生きと活動する姿を見せていただきました。また、研究協議の新しい形態を体験し、有意義な研修となりました。ありがとうございました。(名寄市立名寄東中学校 植田美保子)

6 読書活動 6/18

高橋 健史 (永山東小 教頭)
常本 和幸 (朝日小 教諭)

講師



学校図書館の活用方法や機能、役割などについて改めて知ることができました。また、図書館補助員の方々からの考えやご意見を聞くことができ大変参考になりました。今後の活動に生かしていきたいと思えます。ありがとうございました。(旭川市立青雲小学校 室橋 涼)

7 図工・美術科実技 6/27

名達 英詔 (北海道教育大学 旭川校 教授)
坂田 智美 (向陵小 教諭)

講師



子どもたちの活動の幅を広げるために教師が用意する「魅力的な誘い」の重要性を感じられました。糸を用いた実技体験では、中学生でも造形遊びを十分に楽しめると実感できました。貴重な経験をさせていただきありがとうございます。(旭川市立神居東中学校 橋本美咲)



8 複式教育 7/1

岡本 美雪 (江丹別小中 教頭)
豊岡 玲子 (富沢小 教諭)

講師

豊富な資料のもと、複式学級での授業の組み立て方の基礎を学ぶことができました。また、研究協議では、活発な意見交換の中で、他の先生方の多様な考え方に触れることができ、大変刺激を受けました。どうもありがとうございました。(富良野市立札別小学校 亀島真梨子)

9 小学校外国語活動 7/2

清水 忠明 (日章小 教諭)
辻野 尚広 (愛宕小 教諭)

講師



講義と研究授業を通して、ALTとの連携において、学級担任の授業のねらいと関わりが大切であることを学びました。演習では、授業ですぐに実践できるゲームも紹介していただき、実りある研修となりました。ありがとうございます。(旭川市立啓明小学校 堀 拓真)



19 幼稚園教育 8/5

藤田由美子 (北海道教育大学 旭川校 准教授)
伊藤 陽子 (近文第二小 教諭)
芳賀 拓実 (附属旭川幼稚園 教諭)

講師

この講座を通して、幼小連携の大切さについて知ることができました。また、幼稚園の先生方と意見交流できたことが、とても貴重な時間となりました。ありがとうございます。(旭川市立春光小学校 今井かおり)

20 いじめ・不登校 8/6

武田 公孝 (旭川市適応指導教室 専任指導員)
小出 雅之 (青雲小 教諭)

|| 講師 ||



いじめや不登校に対する今日的な課題と指導の在り方について学びました。不登校のタイプは様々ですが、早期の発見と、焦らずに待つ姿勢の大切さを改めて感じました。児童が安心して過ごせる学級づくりに努めたいと思います。
(美瑛町立美瑛東小学校 奥山 恵)



22 音楽科実技 8/27

石田 久大 (北海道教育大学 旭川校 教授)
目黒 幸子 (北門中 教頭)
大熊 勝映 (東光中 教諭)

|| 講師 ||

今回の研修は、授業・実技とも「創作は楽しい!」と思わせてくれるもので、大変有意義でした。創作は自由度が高い分、どこに焦点を置くか非常に悩ましいですが、参考になることがたくさんあり、ぜひ実践してみたいと思いました。
(旭川市立東鷹栖中学校 福村 啓太)

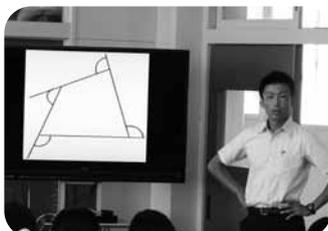
21 学級活動 8/27

筒井 章夫 (愛宕東小 教頭)
造田和佳子 (東光小 教諭)

|| 講師 ||



学級活動の現状や歴史についての講義、授業参観等、大変有意義なものでした。学級活動の授業は初めて参観したため、明日からすぐに実践したくなるような内容で大変勉強になりました。わかりやすくご指導いただき、ありがとうございました。
(旭川市立春光小学校 江夏 舞)



12 算数・数学科指導 7/30 8/28

相馬 一彦 (北海道教育大学 旭川校 教授)
南 裕一 (北都中 教頭)
松林 貴子 (知新小 教諭)
角地 祐輔 (東陽中 教諭)

|| 講師 ||

授業参観では、授業展開に添った丁寧な板書が思考の手立てとなることや、問題解決的な授業は、課題解決の過程を重視する授業であることを学びました。今後、授業が価値ある算数的活動となるよう努力していきたいと思っております。ご指導ありがとうございました。
(名寄市立名寄南小学校 鉢呂由紀子)

23 技術・家庭科実技 8/29

川邊 淳子 (北海道教育大学 旭川校 教授)
 浅野あゆみ (東栄小 教諭)

講師 II



参観授業での子どもたちが意欲的に活動する姿から授業の目的や子どもたちの実態に合った教材を工夫することの大切さを改めて実感しました。講義・実技は、すぐに授業で実践できる有意義なものでした。ありがとうございました。
 (旭川市立緑新小学校 川原かなえ)

13 外国語科(英語)指導 7/30 9/2

講師 II

笠原 究 (北海道教育大学 旭川校 教授)
 鶴飼 敏史 (光陽中 教諭)
 田中菜穂子 (日章小 教諭)
 久須美克典 (常盤中 教諭)

英語教育の授業の実際や評価の方法など、すぐに役立つ内容ばかりで大変有意義な講座でした。コミュニケーション活動を授業に取り入れることの大切さを改めて学ぶことができました。大変ありがとうございました。

(上富良野町立上富良野中学校 米田 真)



15 理科指導 8/1 9/2

安藤 秀俊 (北海道教育大学 旭川校 教授)
 工藤 雅樹 (嵐山小中 教頭)
 山中 芳子 (旭川小 教諭)
 小嶋 栄次 (神楽中 教諭)

講師 II



小学校・中学校の授業参観を通して、教室全体を使った臨場感や広がりを出す教材や日常の言葉を科学用語に結びつけながら思考を深める発問の仕方を学ぶことができました。大変有意義な研修となりました。ありがとうございました。
 (旭川市立啓北中学校 高嶋優美)

10 国語科指導 7/28 9/3

講師 II

上田 祐二 (北海道教育大学 旭川校 教授)
 小城 好永 (春光台中 教諭)
 坂口 陽子 (東栄小 教諭)
 木村 智美 (忠和中 教諭)

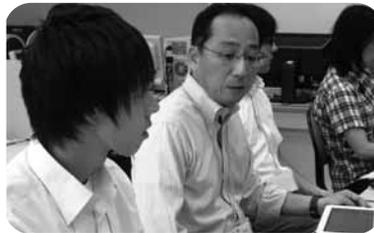
子どもに「読む」力を付けさせるための方策や、それらを組み入れた授業の実際をご指導頂き、大変有意義な時間となりました。テンポ良く進み、生徒が自ら活動する授業もご提示頂き、今回の学びを自分の力にしようと思います。ありがとうございました。
 (旭川市立東鷹栖中学校 森田 侑希)



(9)

24 指導技術基礎 9/3

橋本 崇 (常盤中 教諭)
伊藤 健治 (西神楽中 教諭)
講師



授業の中でタブレットPCをツールとしてどう活かすか、また様々な場面での活用の可能性をご教示いただき、大変有意義な研修になりました。日々の接遇での「相手を尊重する心構え」も再確認することができました。ご指導ありがとうございました。

(旭川市立光陽中学校 小林 千織)



25 校内研修 9/9

西分 健二 (青雲小 教頭)
五十嵐 徹 (青雲小 教諭)
神山 仁 (青雲小 教諭)
講師

校内研修や授業研究の在り方、成果の生かし方等、今後の研修に役立つ内容を数多く学ぶことができました。また、後半の実践交流では、各学校の取組や課題、現状などを知ることができ有意義なものとなりました。どうもありがとうございました。

(旭川市立大有小学校 亀山 麻子)

大町小学校「特別支援教育」 8/20



【講師：鳴川啓子 (青雲小 教諭)】
講話の中で特別支援教育の現状や具体的な実践事例をわかりやすく示していただき、大変勉強になりました。また、保護者や関係機関との連携が、とても大切だということを確認することもできました。ご指導ありがとうございました。

(旭川市立大町小学校 横山 淳子)

多寄小学校「算数科指導」 7/22 「複式教育」 8/25



【講師：南 珠江 (新富小 教頭)】
吉澤重光 (近文第一小 教頭)】
次年度の公開研究大会に向けて、今日の算数科指導のあり方について、話し頂きました。大変わかりやすく、特に自力解決、集団解決の時の教師の関わり方について理解を深めることができました。ご指導いただきありがとうございます。

(士別市立多寄小学校 金子健太郎)

(士別市立多寄小学校 野口 美保)

出前講座寸描

美深小学校「生徒指導」 8/25



【講師：杉山禎裕 (比布中 教頭)】
情報モラルを中心に生徒指導について深く考えることができました。また、ネット上での問題行動への対応について、みんなで作りました。これからは、より良い対応の仕方を考え、児童の成長につなげる指導を心掛けていきたいです。

(美深町立美深小学校 高橋 好美)

中富良野中学校「パソコン実技」 8/26



【講師：田中佳典 (美瑛中 教諭)】
エクセルの基本操作から知っているのと便利な裏ワザまで、不慣れな職員にもていねいに教えていただきました。今後の学校保健で活用し、児童・生徒に寄り添っていかれたらと考えています。ご指導ありがとうございました。

(中富良野町立旭中小学校 谷本れい子)

多寄中学校「道徳教育」 8/28



【講師】：則末俊介(永山中 教諭)
各教科において、計画的に道徳の指導を重ねていくことを実践例を交えながら示していただきました。...

緑が丘小学校「版画指導～多色刷り」 8/29



【講師】：川原 潤(永山中 教諭)
版画指導に対して苦手意識がありました。より実践的なアクティビティにより払拭されました。...

心に残る授業

その⑦



石山 輝

上川教育局義務教育指導班 指導主事

広大で豊かな自然に恵まれた本道において、地域の教育力や自然環境等の資源を有効に活用した教育活動を行うとともに、複式学級においては、主体的な学習を促し、学び方を身に付けることができる「直接指導」や「間接指導」を工夫することが求められています。...

で、六年生の直接指導が始まり、五年生の導入同様、課題解決への見通しをもたせる場面を丁寧扱いながら自力解決へと進んでいきました。
集団解決の場面においては、自分なりの解決方法を各自のホワイトボードに書き記した後、学習リーダーを中心に、発表、意見交流を進めるなど、各学年ともに児童が主体的に学習を進めていきました。
学級担任は、その間、支援を必要とする児童に個別の指導を行ったり、学習リーダーへの声掛けをしたりしながら、各学年の学習が効果的、効率的に進むよう適切な指導を行っていました。...

センター所有のタブレットPC貸出しについて

研修センターには、昨年度からタブレットPC 7台を所有しております。出前講座や研修センター利用時に貸出しできますので、事務室までお声かけください。

センター無線化(Wi-Fi)のお知らせ

館内のほぼ全域で無線LANが使用可能になりました。設定方法等については館内に掲示しておりますので、会議や講座等でご利用ください。なお、不明な点があれば指導員佐々木までご連絡ください。

フィンランドでの研修報告会

(地域とともにある学校づくり シンポジウム)のお知らせ

とき：11月29日(土) 13:20~
ところ：旭川市大雪クリスタルホール
フィンランド教育交流研修参加教員

- 東神楽町立東神楽中学校 伊東 裕子 教諭
旭川市立陵雲小学校 田村 貴史 教諭
旭川市立常盤中学校 久須美克典 教諭

発行日 平成二十六年十一月四日
発行 上川教育研修センター
〒077-0003 旭川市六条通四丁目
印刷所 東信印刷株式会社

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。